

主は十二人を遣わされた

(マルコ6・7・13)

一、「十二人」が意味するもの

7節をご覧ください。また、十二人と呼ばれ、二人ずつ遣わし始めて、彼らに汚れた霊を制する権威をお授けになった。とあります。主イエスは十二人を遣わすために呼び寄せられました。そのために、汚れた霊を制する権威をお授けになりました。その際主イエスは、「十二人」を新しいイスラエルとして派遣されたものと考えられます。そういう目で見てまいりますと、キリスト教会はイスラエルの新しい十二部族であると言えます。ヤコブの手紙1章1節に、〈神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、離散している十二部族にあいさつを送ります。〉とありますが、〈離散している十二部族〉は、異邦人も含めた新しいイスラエル、すなわち教会を指しています。

二、だれに遣わされたか

では、十二人はだれに遣わされたのでしょうか。イスラエルの家の失われた羊たち」にです。主イエスが「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と語られた時、だれに語られたのでしょうか。ユダヤ人たちにです。なぜなら、それがご自身に授けら

れた使命だったからです。ですがご存じのように、復活後は異なりました。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」と語られました(マルコ16・15)。

そういうわけで、ご在世当時の主イエスは、「イスラエルの家の失われた羊たち」に福音を語られました。当然のこと、弟子たち十一人も、イスラエルの家の失われた羊たちに福音を語ったわけです。それが12節、13節です。〈こうして十二人は出て行って、人々が悔い改めるように宣べ伝え、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人を癒やした。〉と。十二人が遣わされた理由は、神の前に失われていた、すなわち滅んでいたイスラエルの人々が悔い改めるためでした。ちなみに、「悔い改める(メタノオス)」の意味は、「心を変える」「考え方の根本を変える」ことです。十二人は、神の前に失われていたイスラエルの人々が心を変えて、神に立ち返るために遣わされました。

三、心が開かれている者

神の前に失われた存在となっていたイスラエルの人々が心を変えるために遣わされた務めは、むずかしいものに見えたと思われれます。ですが、主イエスが教えられたやり方は、決して弟子たちができない務めではありませんでした。8節、9節をご覧ください。〈そし

て、旅のためには、杖一本のほか何も持たないように、パンも、袋も、胴巻の小銭も持って行かないように、履き物ははくように、しかし、下着は二枚着ないようにと命じられた。〉とあります。杖と履き物は、蛇や野獣のいる中での移動となりますから、身の安全のために、どうしても必要でした。ところが、パンと小銭は持って行かないように、また下着は二枚着ないようには、現地調達の意味合いかと思われれます。主イエスは弟子たちに、まず自分たちを受け入れてくれる家を探し、とどまるようにおっしゃいました。10節です。〈また、彼らに言われた。『どこでも一軒の家に入ったら、その土地から出て行くまでは、その家にとどまりなさい。』とあります。どこに行っても、あるいはだれと出会うとも、すでに神の前に心が開かれている人がいるものです。そういう方が、主にあつて協力者となります。ですから、礼儀を弁えつつ、協力を得たらよろしいです。反対に、神の前に心を閉ざしている人の場合は、神の前に心を開くことはできませんから、別の場所に行ったら良いわけです。それが、11節です。〈あなたがたを受け入れず、あなたがたの言うことを聞かない場所があったなら、そこから出て行くときに、彼らに対する証言として、足の裏のちりを払い落としなさい。〉と。これは主イエスがすでになさったこと

でした。ちなみに今回のテキストの前には何が書かれているでしょうか。主イエスが郷里であるナザレに行かれたところ、人々は主イエスの語る教えに驚いたものの、途中から態度を一変させて、主イエスを受け入れませんでした。すると、主はどうされたでしょうか。6章6節です。〈イエスは彼らの不信仰に驚かれた。それからイエスは、近くの村々を巡って教えられた。〉とあります。すなわち、ナザレを去って、近くの村々を巡って教えられたのでした。そして7節になると、主イエスは別の地域に十二人を遣わされたことを知ります。

〈人々が悔い改めるように宣べ伝え〉

るとは、無理矢理に相手を説き伏せることではありません。神は一人ひとり御手の中に収めておられます。ある人は時が来ており、ある人はまだの場合に分かれます。私たちには、そのことが分かる場合と分からない場合があります。当方が主イエス・キリストを信じていると、相手が知ったときに、拒絶反応を起こす場合は、当然協力者にはなり得ません。こればかりは、どうすることもできません。ですが、キリストの福音を語って、相手の方にどういった反応が起きるかは、案外と分からないものです。ですから聖書は語っています。〈11テモテ4・2aみことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。〉と。